



題字：田尾寿夫 園長



「Green Renaissance（みどりの再生）中間まとめ」

川部みどり園長 田尾 寿夫

平成23年度はみどり園にとって、新体系移行という節目の年で、併せて、利用者定員や職員配置の見直しなど、みどり園版「基礎構造改革」元年となりました。その中で、調理業務の外部委託、通所者のための送迎の開始（外部委託）など、サービスの向上と同時にコストダウンにも取り組み、予想以上の成果をあげることができました。

また、平成20年度から取り組んできた地域生活への移行もほぼ計画どおりの結果となりそうで、御協力いただいた利用者や関係者の皆様に感謝申し上げます。

ソフト面での「構造改革」については、自閉症の

利用者に対するコミュニケーション支援や SST（社会生活技能訓練）を取り入れた訓練などに積極的に取り組み、支援力の向上を図りました。

平成24年度においても、通学バスの委託や心理指導職員の配置、送迎車の増車など、基礎構造面での更なる強化と、発達障害児・者に対する支援の充実を図るとともに、施設入所による生活訓練の実施、虐待を受けた障害者等特別なニーズを持つ方の支援、災害時の支援体制の確立など、新たな課題にも果敢に取り組み、Green Renaissance を開花させたいと考えておりますので、皆様の御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。

23年度 新体系に移行して (今年度活動報告)

川部みどり園の地域生活支援課と成人課は平成23年4月に新体系に移行し、日中活動の場と施設入所支援が明確に区別された事業所となりました。そして日中活動の場として、生活介護事業所が定員42名のうち39名、自立訓練(生活訓練)事業所が定員12名のうち9名、就労移行支援事業所が定員6名のうち4名でスタートしました。現在(平成23年12月末)、生活介護事業所に40名、自立訓練(生活訓練)事業所に11名、就労支援事業所に5名の方が利用されています。朝9時30分には施設から、地域からそれぞれがそれぞれの事業所に元気な声と共に登所します。送迎車を利用して登所する人は12名います。夕方4時まで各事業所では次のようなことに重点を置いて取り組んでいます。

生活介護事業所では、重度の障害の人にも“わかりやすく伝える”ために環境と支援の「構造化」に、自立訓練(生活訓練)事業所では、利用者の生活のしづらさを軽減し、対人コミュニケーション能力を高めるために「SST」に、就労移行支援事業所では、それぞれの能力をより確実に発揮できるようなツールの開発に取り組む、それぞれが自身の夢や希望や目標の実現に向かえるよう支援しています。では各事業所(班)より詳しく活動について紹介します。(地域生活支援課長 植村)

生活訓練班

SSTの紹介

生活訓練班では、今年度から新たにSSTを活動プログラムに取り入れています。

SSTとは、本人が苦手だなあと感じているコミュニケーションを、実際の場面を設定して何度も練習し、実際の場面でできるようにするためのトレーニングです。

訓練班では「将来地域で生活する」という共通の目標に向かって、「上手に挨拶をする」、「お礼を言う」、「素直に謝る」、「上手に断る」など様々な日常生活に役立つコミュニケーションスキルを練習しています。

例えば、「電話に出る」のSSTセッションの様子です。

楽しいウォーミングアップでリラックスした後、まず、職員が簡単な劇をします。

職員がする悪い例を見て、皆さん「こんなではいかんわ〜」と苦笑い。

「どこが悪かったのかな?」と皆で考えていきます。

「自分の名前を言わないかん。」「誰ですか?って聞く。」など皆さんから意見が出ます。

相手の名前を聞く時に、「どちらさまですか?」という言い方があることを伝えると、聞いたことも、言ったこともない言葉に首をかしげる皆さん。顔がとっても不安そうです。

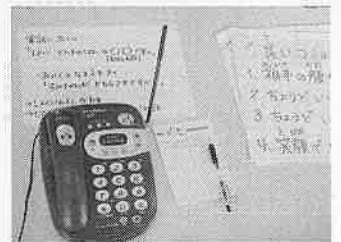
でも、それを練習して上手に言えるようにしていくのがSSTなのです。

さっそく、ロールプレイで1人ずつ皆の前で練習です。

たとえうまくできなくても大丈夫。皆で少しでも良くできた所、頑張っていた所を褒め合います。ここがSSTの大切なポイントで、今まで電話に出た経験のなかった人も、不思議と自信が湧いてきて、練習を重ねる度に上手になっていくのです。

今では、訓練班の電話が鳴るたび、「次は私が出る〜」という声が。

皆さんSSTが大好きで、毎週1回のセッションを楽しみにしています。(生活訓練班 溝内)



就労移行支援班

就労移行支援班の特徴のひとつが「個人にあった支援ツール」の作成です。就労班を利用される方の多くはコミュニケーションの問題で指示理解が苦手だったり、記憶するのが不得手だったりします。その結果迷いながら自分で判断して作業をしてしまい、注意され自尊心が傷ついてきた経験を持っています。そこで私達は「個人にあった支援ツール」を作成し、そのツールを利用しながら作業を行ってもらっています。すると「①手順が正確」「②ミスが大幅に減る」「③作業速度が上がる」「④仕上がりが美しい」という効果が上がり、その結果「成功体験」「誉めてもらう」ことができ、失った自尊心を取り戻すことができました。すると不思議なことに自信あふれる言動が見られだし、コミュニケーション能力も向上しました。個人個人にあったツール作成はしっかりとアセスメントすることが重要です。

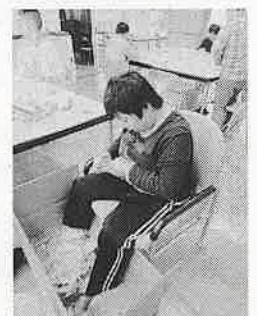
ツールを使って利用者の方が失敗してしまうと、アセスメント不足だったなああと反省することも多く、日々精進の毎日です。(就労移行支援班 沼田)

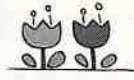


生活介護班

生活介護班のリサイクル活動

生活介護班では利用者の興味、関心などに応じて様々な作業活動を実施しています。Yさんは指先を使う作業が得意なので、試しにペットボトルのラベルはがしをやってみました。最初はふたとペットボトル、ラベルを分けて入れる箱を準備しておきましたが、香川大学教育学部坂井聡准教授の指導を受け、Yさんが作業しやすいような箱を使って取り組むことにしました。Yさんはこの作業がお気に入り作業のスピードも速く、集中して取り組めるようになっていきます。ペットボトルのふたは校区の小学校に通う児童に学校に持って行ってもらい、ささやかなリサイクル活動をしています。(生活介護班 小塚)





60年目のゴールと新たなスタート

わかば児童課長 三井早苗

川部みどり園わかば児童課の誕生日は、今を遡ること60年前の昭和27年4月です。宇多津町に開設された『県立宇多津学園』（入所定員30名）が、昭和46年8月に現在地に移転し、『県立わかば学園』（入所定員80名）と改称、平成8年4月に『県立川部みどり園』（入所定員35名）として統合し現在まで歩んできました。これまでわかば児童課にご縁があった子ども達、職員、関係者は総勢何名になるのでしょうか。想像しただけでも歴史の重さと多くの人々が繋がって今があることに気づかされ、巣立っていった子ども達や、真摯に歴史を守られた先輩職員の皆様方に感謝の気持ちで一杯になります。『3日に一回の宿直勤務で宿明け勤務はなし。綿を打ち替え手縫いの布団作り。聖通寺山に迷い込む無断外出が一番辛かった。』と先輩保育士から良く聞いた話です。今も昔も児童福祉施設は子ども達にとって安心して暮らせる暖かい家庭でなければなりません。

さて今年度も桜満開の時期を迎え、わかば児童課は新しいスタートラインに着いています。児童福祉法改正により『福祉型障害児入所施設』となり更に地域の障害児に必要なニーズを受け入れる体制作りが重要な課題です。一般棟では『児童会活動』を軸に子ども達のエンパワメントを目指した支援の継続を実施します。重度棟では発達障害児（自閉症児）に対して構造化、TEACCHプログラムによる療育に取り組んでいきます。短期入所・日中一時事業についても入所施設の強みを最大限活用し、ニーズに応じて行く予定です。

60年目のゴールとスタートの年が未来から振り返った時、皆が健康で輝いていた年になるように願っています。また10月のみどり園まつりではささやかな記念行事を開催いたしますので、懐かしい皆様方にお会いできることを楽しみにしています。



北棟

初詣に行ってきたよ！

「行こう？」「いいね！いいね！」
「そうしよう！」「じゃー準備準備！」
行ってきたよ！行ってきたよ！初外出！初ドライブ！ちょっと遠くまで、子ども達7名と西棟の応援をもらって、長尾の鶴亀公園にある宇佐神社まで初詣に行ってきました。

イオン外出、電車見学、仏生山公園、病院、外出等々、いろいろ思っているようでしたが、みんな静かに座ってワクワク！表情は穏やかでした。あっという間に到着！参拝で会った他施設の方に挨拶をし、参道までの屋台に引き込まれそうになりながらも、手を清め、本殿へ、鏡餅に手が出ることもありましたが、代表でお賽銭入れ、巫女さんにお祓いしてもらい、無事にそれぞれの願いをお願いして来ました。帰りの車内は行きにもまして笑顔が一杯！今年一年にこやかに1歩1歩前に進んで行けますように！（北棟 山地）



西棟

岡本荘訪問による心育て

今年の冬休みも、もう今では恒例になった岡本荘との交流会がありました。

今回は時間の都合により清掃活動はカットさせて頂き、お年寄たちに「エイサー」をみてもらったり、ゲームや歌で楽しいひと時を過ごしました。西っ子児童会の役員になっている子どもたち中心に事前に話し合い、進行もできるだけ職員が見守る形でやってみました。

初めは自信がなかったり、恥ずかしかったり・・・小さかった声そのうちだんだん大きくなり、終わる頃にはすっかり溶け込んでいました。

子どもたち自身が考え、それを形にしていくことでそれぞれが自己実現していく素晴らしい機会だと思います。今後は活動の場を拡げていこうという思いから、鬼無町にある大寿苑の方でも御世話になる予定ですが、子どもたちの活躍する姿をそっと見守ることができればと思っております。（西棟 熊井）



第66回香川丸亀国際ハーフマラソン大会参加

寒さに負けない強い体作りの一つとして、香川丸亀国際ハーフマラソン大会に西棟児童が応援も含め18名参加しました。その内、小学生1kmの種目に男子1名、中・高校生3kmの種目に男子6名、女子3名が出場しました。その他の人はスタンドで応援しました。

当日は児童虐待防止の願いを込めたオレンジリボンを着用し、学校の先生や保護者の応援を受けて走りました。休みの日に園外歩行（約10km）などで体力作りを行ってきた成果が生かされ、昨年以上の記録が出ました。ボランティアで2名、退園生1名も一緒に走ってくれ、ありがとうございました。

大声を出して応援し、汗を流し全員完走しました。清々しい思い出に残る一日でした。（西棟 秋山）



困難事例検討会の報告と来年への課題

発達障害による強度行動障害を有する利用者・児に対する支援の向上を目指すため、第1回川部みどり園支援困難事例検討会を12月7日に開催しました。

おかやま発達障害者支援センター所長新谷義和先生を助言者に迎え、5例の事例発表を行い、各事例毎に先生から具体的に分かりやすいアドバイスをいただきました。その後、「支援困難事例に対する基本的な関わり方」をテーマに短時間ではありましたが講演がありました。

午前中だけの開催にもかかわらず時間一杯熱心な検討会が行われ、先生のアドバイスを実際の支援に反映できるよう取り組んでいくことなど、今後の支援のあり方について考える良い機会となりました。（北棟 松本）

西棟児童会だよりの紹介

今年度、児童課一般棟である西棟では、子ども達がそれぞれ「児童会」役員を分担し、私たち支援者は子どもたちの声を反映させながら彼らと一緒に色々な行事をしました。毎月発行している「西っ子児童会だよりの報告です。」はその報告です。（西棟 高田）



★年末年始の行事紹介★

ペタンペタン！もちつき

なかなか園全体の行事がもてない川部みどり園、数少ない児童と成人と一緒に楽しめるひと時がこの「もちつき」。園長自らが杵どりをし、子どもも大人も一緒になって利用者が杵をふるいます。厨房の一富士フードサービスさんが「よいしょ！よいしょ！」と大きな掛け声をかけてくれ、会場の食堂は熱気でムンムン！慣れてくるにつれ、西棟の子ども達も杵どりができるようになりました。ねじるようにして熱いもちを臼の中にかき回すと、臼の底から上手に餅がとれました。つきたての熱々餅をテーブルまで一気に運んで、女性中心にいっせいに餅を丸めます。五臼つき終えた後は、みんなで丸めた餡餅・黄粉餅・鶯黄粉餅をおいしくいただきました。



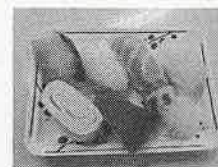
寿司パーティ！握り寿司に舌鼓！



川部みどり園ではリクエストメニューというものを実施しています。誕生日に何が食べたいか、利用者の皆さんにあらかじめお尋ねしておきます。ハンバーグ・カツカレー・中華丼・ステーキ等等皆さん色々リクエストしてくれます。

12月26日は利用者Oさんのお誕生日、なんとリクエストは握り寿司。しかも調理師さんが目の前で握ってくれるサプライズ付きです。食堂の真ん中に設置されたコーナーで調理師さんが寿司を握りだすと「わーっ」という歓声が食堂に響き渡りました。握りたてのお寿司を頬張り笑顔一杯。とっても楽しいサプライズの一夜で、みんなおなか一杯、満足して眠りました。

また、去年の12月からは選択メニューも始まり、どちらにしようか迷いながら好きなメニューを選んでいきます。



虐待防止の取り組み

施設内虐待が取り沙汰される昨今、みどり園においても虐待防止委員会を設けて適切な支援を目指しています。

去年は職員全員による虐待防止レポートの作成を始め、標語の募集をし、投票数の多かった標語については今もなお園内に掲示されて、日々自分の行動の振り返りになっています。

今年は、小グループによる虐待事例演習の外、オレンジリボンを皆で作って正面玄関に飾ることで、意識を高めていくことにしました。(表紙写真)

◆退職者の紹介◆ (順不同)

古川正則

私は、みどり園に計3回(9年)勤務させていただきました。最後の2年間は、体調不良でみなさんにご迷惑をおかけしました。利用者の皆様の支援をしているつもりでしたが、皆さんから学ぶことがいろいろありました。退職後は、のんびりと過ごしたいです。皆さんも身体に気をつけて、お過ごしください。

佐々木知代

今から30数年前、みどり園行きのバスに乗り、田園風景の中を走ったのが昨日のこのように思い出されます。もうすぐ終着駅だと思うと今までのことが走馬灯のように鮮やかに蘇ってきます。今まで見守り支えてくれたあの山、あの空、あの川、あの花、あの鳥そして皆様本当に本当にありがとうございました。



吉岡千代子

わかば学園、みどり園と通算18年間を、ここで過ごしました。

みどり園での一番の収穫は、花や野菜を育てるのが、楽しいと気付いたことです。

また、特に思い出深いのは、ボランティアを担当して、みどりっこクラブをつくったこと。

子ども達の成長をもう少し感じていたいのので、退職後も「みどりっこ」にかかわっていかうと思っています。ありがとうございました。

松本由美子

たくさんの方々助けられ、今日まで来れたことに感謝しています。

特に、最後の職場となりました川部みどり園の皆様には、大変お世話になりました。また、この1年は、新体系移行で大変なところもありましたが、職員の皆さんの人間性に助けられ、なにより子ども達の笑顔に助けられ無事過ごすことが出来ました。よい方々に出会い本当に良かったと思っています。ありがとうございました。

編集後記

昨年4月に新体制のみどり園がスタートし、早くも1年が終わりました。私自身、日に日に変化していく利用者の姿に驚き、悩み、喜んだ1年になりました。広報紙を読んでくださっている方にもみどり園や利用者の小さな変化が届いていれば幸いです。

編集・発行 〒761-8046 高松市川部町418
香川県立川部みどり園 TEL代087-885-8600
E-mail:midorien@pref.kagawa.lg.jp
http://www.pref.kagawa.lg.jp/shogaihukushi/midorien/

この冊子は再生紙を使用しています。